

障害者欠格条項をなくす会ビデオメッセージ 原稿

(動画)

<https://photos.app.goo.gl/YxGaTYyRuJqTa5Tw5>

はじめまして。秋田大学医学部医学科5年生の荒巻修治です。

この度は、このイベントにお誘いいただきありがとうございます。

私からは、聴覚障害のある医学生として、大学での情報保障などの体験談を

ビデオメッセージではありますが、お話しさせていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

内容はまずはじめに自己紹介、大学での合理的配慮、そしてまだ残っている課題、

最後にまとめ、という流れで発表したいと思います。

まずはじめに自己紹介です。

私の名前はあらまきしゅうじと言います。

秋田大学医学部医学科の5年生です。

両耳90dbの聴覚障がいがあり、普段は補聴器を装着しています。

これまではずっと地域の聴学校に通っており、

コミュニケーション方法は手話と口話とスマホを使って音声認識で文字起こししながら会話しています。

次に大学での合理的配慮についてお話ししたいと思います。

大学に入ったばかりのときは、まず大学の学務課、学生サポートルーム、学年担任の先生と面談を行い、

合理的配慮について相談しました。

私が大学に入った当時はちょうど新型コロナウイルスが流行り、1年生の前期はオンライン講義が主だったため、相談する機会が多くありました。

そこで自分の希望する合理的配慮の要望書を作成し、対面授業だったり実習での合理的配慮を具体的にお願いしました。

秋田大学ではこれまでノートテイクの方がいなかったもので、学生サポートルームと協同でノートテイクマニュアルを作成しました。また、筑波技術大学の方にもご協力いただいてテイクの講習会を行ったり、

有償ボランティアというシステムを学務課と作っていただいたりして、学生ノートテイクを募集しました。

そして対面講義の際には情報保障として、タブレットに音声認識で文字起こししたり、学生のノートテイクさんに隣についていただいて、テイクしていただいてそれを見て授業を受けていました。

試験の時には文書による指示でわかりやすくして試験を受けていました。

ノートテイクについて

医学部の授業では、やっぱり専門用語が多かったり、解剖などの画像が多くてすべてを書き起こすのはやっぱり難しかったので、

講義の先生方に紙の資料を用意していただいて、

その資料に直接書き込むという形でノートテイクしていただきました。

重要な専門単語や、「これ」などの指示語で示しているものを丸で囲んだり

矢印で書いたりわかりやすく工夫していました。

専門用語だったり英単語は、音声認識での変換が難しかったので、そのテイクのおかげで本当にたくさんの情報が得られたと思っています。

そして2年生からは解剖実習が始まったのですが、

そのときには専門のノートテイクの方にお越しいたいて、ノートテイクし

ていただいたり

解剖の教科書をコピーして印刷してクリアファイルに入れて、

解剖台で班のみんなが見えるようにして、班の中で指さし確認しながら進めて
いきました

3年や4年のときは講義が中心だったのですが、

4年のときにオスキーという病院実習前の試験があって、後期から実際に病院で
の実習が始まりました。

そのときは、実習中のことも情報保障も考えて、これまでノートテイクしてくだ
さっていた学生さんを中心に

実習班を組んでいただいて、実習中も交代でノートテイクしていただける形に
なりました。

本当に安心しました。

今5年生で病院で実習を行っているのですが、今の主な情報保障としては、

スマホの音声認識による文字起こし、学生テイカーさんのノートテイクを受け
ています。

また、次の実習先に回る前に、あらかじめ学務課の方と一緒に次の実習先の先生

と3人で面談をしました。

自分の聴覚障がいのことや、どういう配慮が必要なのか、例えば学生テイクに
テイクしてもらいながら参加することなどをお伝えして、
先生方の理解を得られるようにしました。個人的にはこの事前の面談で理解を
得られたことがすごく大きかったと思います。

そのおかげで口元の見やすい透明なマスクをつけてくださったり、患者さんにも
事情を説明してくださったりと、いろいろとご配慮いただいてとても助かり
ました。

本当に今いろいろ配慮していただいている、

あまり困っていることはないのですが、

音声認識の精度が100%完璧にできるわけではないので、そういった課題は少し
残っています。

特に専門用語は難しいですし、カンファレンスのように大人数が話すときは難
しいです。

今はノートテイクがあるので情報は入りますが、タイムラグなども含めて、今後
テクノロジーがもっと進化してくれることを期待しています。

また、音声認識やノートテイクを見なければいけないので、カンファレンスでカ

ルテや CT・MRI を見なければいけないときに、見ることが多いので少し大変です。

あとは秋田なので方言の患者さんもたまにいらっしゃって、そのときは音声認識がなかなか難しいです。

また、今5年生なので、今後初期研修を行う病院を探しているのですが、新しい病院で就職するときは、学生テイカーの方もいなくなるので、新しい環境になり、聴覚障がいについて理解してくれる方も減ってしまうので、理解が得られるように頑張らなければいけないというのも、少し不安というか課題だと思っています。

最後にまとめです。

まずは大学の学務課、学生サポートルーム、先生方と具体的に合理的配慮について相談できたことがとても大きかったです。

前期と後期ごとに、半年に一回は相談して、どういう配慮がよかったか、もっとどんな配慮がほしいか、などが相談できたので良かったです。

また最初に学生サポートルームと一緒にノートテイカーのシステムを作ることができたのもすごく良かったです。

そしてテイカー中心の実習班することで、病院実習中もサポートを受けること

ができて、本当に助かっています。

次の実習先の先生にあらかじめ障がいと必要な情報保障について説明する機会をいただけて、そこで理解を得られたこともすごく嬉しかったです

本当に、先生方やテイクしてくださっている学生さん含め多くの方に助けていただいて、本当にすごく感謝しています。

最後に、

コロナもありマスク下でのコミュニケーションはやっぱり難しいですし、ハードルも多いですが、それで何か出来ないと諦める理由はないと思います。

私も外科の先生に「君はもっと挑戦できる」と言われたことがあり、そういった言葉や助けていただいている多くの方への感謝を胸に、これからも頑張っていきたいと思います。

もし私の今回の発表が、障がいを理由に何かを諦めたり、心が折れそうな状況にいる人の背中を押す一押しになれば幸いです。

以上で発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。